

カリブの防災と文化交流に尽力 松村JICA専門家ご夫妻が2年間の任期を終え離任

カリブ災害緊急事態管理機構（THE CARIBBEAN DISASTER EMERGENCY MANAGEMENT AGENCY：CDEMA）における2年間の任期を終え、松村直樹JICA専門家が離任されました。

松村専門家は、この2年間で、カリブ地域全体の防災能力強化に向け、災害発生時の緊急対応に加え、防災体制の整備や組織能力の強化、国際機関や開発パートナーとの連携促進など、中長期的な防災レジリエンスの向上を目的とした技術協力に尽力するとともに、日本政府とCDEMAとの間の水防災・水管理分野に関する協力覚書の署名に貢献されました。これらの活動を通じて、CDEMAの組織能力の強化に加え、加盟国・地域の防災政策の改善や地域全体のレジリエンス向上、日本の防災の知見を活用した国際協力の推進に大きく貢献されました。



大使公邸にて活動報告後のようす
（左より）宮坂大使、松村みどりさん、松村直樹専門家、漆畑一等書記官

また、松村専門家の配偶者であるみどり氏は、バルバドスに所在する西インド諸島大学（UWI）ケーブ・ヒル校において、日本語講座の新規立ち上げに尽力されるとともに、約1年間にわたり日本語講師として指導に当たられました。日本語教育の普及・発展に大きく貢献されただけでなく、日本文化の紹介を通じて学生や地域住民との相互理解を深め、日本とカリブ地域との文化交流の促進にも大きく寄与されました。



松村専門家（左手前）とCDEMA幹部と協議後のようす。



松村みどりさん（右）日本語クラス授業のようす。

松村ご夫妻の2年間にわたるご尽力に心より感謝申し上げます。カリブ地域の防災や日本との友好・協力関係の発展に残されたご功績は、今後も地域の大きな財産となることでしょう。これからもカリブ地域の大切な仲間として、末永いお付き合いをよろしくお願いいたします。